

ご挨拶

- ① 出身地
- ② 研究内容
- ③ 趣味
- ④ 好きな言葉



就任のご挨拶

岡本 渉

大学病院 がん化学療法科 教授
*協力講座名 「がん化学療法科学」

- ① 愛媛県
- ② 臨床腫瘍学、腫瘍内科学、がん薬物療法の臨床開発、バイオマーカー
- ③ 音楽鑑賞
- ④ 御縁 御恩

令和5年10月1日付で広島大学病院 がん化学療法科 教授を拝命いたしました岡本 渉と申します。平成14年に愛媛大学を卒業後、消化器・一般内科の診療に従事していましたが、平成16年より勤務した広島市立舟入病院で原発不明癌患者を担当したことを契機に、平成18年より近畿大学 医学部 腫瘍内科でがん薬物療法を学び始めました。国立がん研究センター東病院を経て、平成31年より本院がん治療センターに赴任し、原発不明癌・希少癌・消化器癌の薬物療法、バイオマーカーに基づくがん薬物療法の臨床開発のほか、遺伝子診療科 檜井 孝夫教授御指導のもと、がんゲノム医療体制整備にも携わりました。令和5年4月より本院がん治療センター長及び化学療法室長、10月よりがん化学療法科 教授を前任の杉山 一彦名誉教授より引き継がせていただくこととなりました。広島大学や地域医療の発展に貢献すべく、診療・研究・教育に尽力して参りたいと存じます。何卒ご指導ご支援の程、お願い申し上げます。

霞キャンパスニュース

「令和5年 防災功労者内閣総理大臣表彰」を受賞しました

久保 達彦 大学院医系科学研究科 医学分野 公衆衛生学 教授

この度、大学院医系科学研究科 医学分野 公衆衛生学の久保 達彦教授が、「令和5年 防災功労者内閣総理大臣表彰」を受賞しました。災害医療分野における健康データの収集方法に関する国内の標準手法および国際標準様式の樹立や、国内外の災害被災地での活動などの功績が認められ、今回の受賞となりました。久保教授は4月にも「令和5年度 文部科学大臣表彰 科学技術賞（開発部門）」を受賞しており（BioMed News 第9号掲載）、それに続く快挙となります。

今回の受賞にあたり久保教授は、「東日本大震災の教訓化を目指した取り組みとして、災害医療活動に命がけで取り組んでいる国内外の多くの仲間と一丸となって創出してきた成果が、このようなご評価をいただいたことを嬉しく思います。突発的な国内外への災害派遣は周囲からの強い支えがあって実現されてきています。これまで全面的な理解とバックアップサポートをいただいている広島大学の先生方、事務担当の皆さまにも深く感謝いたします。」とコメントしています。



表彰式の様子（久保教授は最前列左から2番目）



BioMed News
第9号
掲載記事はこちら